

川成島の

旗立八幡

平成元年六月五日号

市内には武田信玄に関する史跡が、幾つかあります。今回は、その一つ川成島の「旗立八幡」のお話を地元の三井清治さんに教えていただきました。

川成島に陣を張る

戦国時代のことです。富士市は甲斐の武田・駿河の北条・相模の今川氏の勢力がぶつかりあつたところでした。

永禄十二年（一五七〇年）六月十二日、武

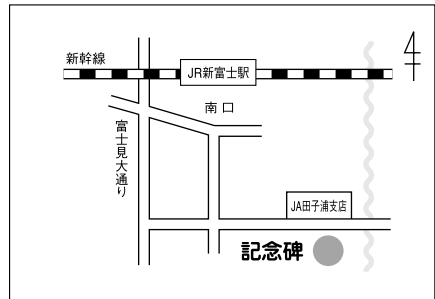
田信玄は一万八千の軍を率いて甲府を出発し、駿府を目指しました。沼津・三島の北条軍を破った後、武田軍は富士川を背にして川成島に家宝の「八幡大菩薩」の旗を立て、陣を張りました。

一方、北条氏康は元吉原の砂山に陣取り、対陣しました。

洪水に慌てた武田軍

にらみ合いの始まった六月十九日ごろのことです。雨が降り出し、夜には大雨となりました。

かりがね堤のできていない当時の富士川は、



▶ 旗立八幡の記念碑（平成十四年一月撮影）



大雨のたびに本流が変わる暴れ川で、たちまち大洪水となりました。

信玄の陣地は水浸しとなり、武田軍は命からがら大宮（富士宮市）へ逃げ延びました。慌てた武田軍は「八幡大菩薩」の軍旗を置き忘れ、旗は寂しく立ち残っていました。北条軍はこれを拾い、小田原城へ持ち帰りました。

村人は軍旗のあったところに社を建て、旗立八幡と呼ぶようになりました。現在は川成島浅間神社に合祀され、跡地に記念碑を建ててあります。

信玄びいきだね

三井さんは「信玄が陣を張ったということ、武田に味方する地侍が、ここにいたということです。そのせいか、今でも川成島の人には概して信玄びいきですよ」と語ってくれました。

語ってくれた方 三井清治さん